

○県立笠田高等学校(以下笠田高校)は、昭和3年に三豊農業学校として開校し、農業者育成の中核教育機関として、多くの担い手を輩出してきたが、時代の変遷とともに普及と高校農業教育の連携が希薄になっていた。

○一方、就農などの情報を与える重要性が増す中、同校が事務局を持っている三豊農業教育振興会(会長:三豊市長)に働きかけ、学校連携を強化し、地域農業への理解促進と就農意欲の醸成を図ることとした。

## 具体的な成果

## 普及指導員の活動

## 普及センターと笠田高校との主な連携活動

連携活動	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
西讃の農業を考える研修会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ホウナンの梨100年祭			○									
農業科2年生の産地農業実習			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地元農産物を使った加工品開発			○	○	○						○	○
三豊農業教育振興会の理事(所長)						○	○	○	○	○	○	○
地元農業法人による会社概要説明会											○	○
JGAP認証(日本なし)取得支援											○	○

## ○先進農家で農業現場での実習の定着



(ロメインレタスの収穫体験)

農業科2年生(90名程度)を対象に、農業士、青年農業士等の協力により、圃場で、プロの農作業を体験。(H21～)

## ○地元農産物を使った加工品開発支援

金時人参、ミカンを使ったジュース「飲んでGO!」の商品化支援。(H21～23)

ビワを使ったゼリー開発に県アンテナショップや企業とのマッチングを仲介。(H29～)



(ビワゼリーの試食販売)

## ○県下初の高校生によるJGAP取得支援

JGAP指導員資格を持つ普及指導員による重点支援により、「日本なし」でJGAPを取得の見込み。(H30)



(普及指導員による講義)

1 三豊農業教育振興会への働きかけ積極的な提案と実績により、普及センター所長が同会の理事に選任され、**関係機関として笠田高校の活動を支援**

2 地域農業学習、産地等と連携した**農家実習の企画**

3 **地域特産品の加工開発の取組み支援**  
「飲んでGO!」の試作から商品化  
「ビワゼリー」試作開発のサポート

4 西讃の農業を考える会、農業法人説明会の開催(**就農を考える機会の提供**)

5 **高校生によるJGAP認証取得支援**

## 普及指導員だからできたこと

・日頃から連携している農業士や部会長、農業法人への働きかけができていたため、地域との連携・調整が可能。

・普及指導員の持つ普及手法を活かして、人を動かし、つないでいく企画力コミュニケーション力を発揮することで成果に繋がった。

香川県

## 学校連携による地域農業への理解促進と就農意欲の醸成

活動期間：平成 19 年度～継続中

### 1. 取組の背景

西讃管内には、昭和 3 年に三豊農業学校として開校し、以来、当地域の農業者育成の中核として多くの担い手を輩出してきた県立笠田高等学校（以下、笠田高校）がある。西讃農業改良普及センターは、県内でも唯一、普及センターと農業高校が徒歩圏内にある。

近年、双方の職員の世代交代に加え、卒業と同時に就農する生徒の減少により普及と高校農業教育の連携が希薄になっていたことから、再度学校連携を強化し、地域農業への理解促進と就農意欲の醸成を図ることとした。

### 2. 活動内容

#### 1 三豊農業教育振興会への働きかけ

同校には、笠田高校の農業教育の振興を図り、地域の発展に寄与することを目的とする「三豊農業教育振興会」（会長：三豊市長 創設：昭和 51 年 4 月）が組織化されている。

同会は観音寺市、三豊市両市長をはじめ両市市議会議員、両市教育長、地元 JA、同窓会、PTA など地元を代表する者で構成されている。

笠田高校との連携強化のためには、同会に働きかけることが効果的であると考え、平成 19 年度から連携方策を模索し始めた。平成 24 年からは、普及センター所長が同会理事として参加するなど、同校との連携を深め、地域を巻き込むものとした。

#### 2 地域農業学習、産地等と連携した農家実習の企画

香川県では、高校教育課と連携し、毎年 10 月の第 4 金曜日を地元の農業を知る機会として、農業科がある高校の希望する生徒を対象に、出身地の普及センターで学習会を開催し、地域農業の概要説明や先進的な農家の現地視察等を実施している。

当センターにおいては、平成 21 年度に初めて試みとして、プロの農家の経営を知り、農作業を体験するため、JA 香川県仁尾町支店果樹部会（以下、果樹部会）と連携し、農産科学科、植物科学科、食品科学科の 3 学科の 2 年生全員（90 名）を対象に各農家で、越冬ミカンの袋かけ作業などを体験させた。現在では、2 年生の現場実習はカリキュラムに組み入れられており、香川県農業士等の農家に出向き、露地野菜や花きの収穫・調整作業や畜産の管理作業を体験している。

### 3 地域特産品の加工開発の取組み

魅力ある農産物の販売を促進する一環として商品開発の取組みを支援している。

#### (1) 「飲んでGO！」の試作から商品化へ

農家での現場実習がきっかけとなり、食品科学科の生徒の発案で、特産品である金時ニンジンとミカンをブレンドしたジュースを商品化しようと試行錯誤を重ねた。出来上がった試作品について、研修会等での試飲や開発の発表のほか、各種イベントや金時ニンジン部会の販促活動に同行する等、普及センターから取組みを披露する場を提案した。また地元の食品企業に働きかけ、平成23年「飲んでGO！」が商品化された。

#### (2) 「ビワゼリー」試作開発のサポート

仁尾町支店果樹部会は、香川県のビワの発祥の地であり、また県内でも有数の産地となっていたが、近年は販売単価・生産量ともに伸び悩んでいた。同部会では、平成27年度から「大薬王樹（だいやくおおじゅ）」というブランド名でビワの販促活動に取組み、併せてビワの加工品も模索していた。普及センターでは「飲んでGO！」の成功体験から、笠田高校に協力依頼することを提案し、ビワ農家が笠田高校に出向いてビワの歴史やびわの生理・生態等の講座を企画するなど、新商品開発のアイデアを醸成した。平成29年度から、県内のアンテナショップでの試食販売イベントには、部会と共に参加し、自ら販促活動を行い、自分達の取組みや学校のPRを行った。

### 4 西讃の農業を考える研修会や農業法人説明会の開催

三豊農業教育振興会と連携し、管内のリーダーとなる農業者の育成を目的に、三豊の農業を支えるリーダー研修会を開催していたが、笠田高校に働きかけて、同校開校80周年記念イベントと同研修会を共同主催で開催することを提案し、平成19年度から、笠田高校生3年生がその研修会に参加するようになった。現在は、研修会の前半に、笠田高校生の農業クラブ等でのプロジェクト活動を発表し、地域の農業者に伝える場としている。

また、平成29年度からは新たな試みとして、農業科2年生を対象に農業を就職の場として選択してもらえるよう、管内の農業法人に働きかけ「農業法人説明会」を開催した。農業で活躍している法人の代表者の農業への思いを直接学生に伝えることができた。

### 5 高校生によるJGAP認証取得支援

近年、高校生によるGAPの認証取得が全国で行われている。笠田高校では校長先生の強いリーダーシップの下、「香川県で初の高校生によるGAP取得」を目指すことになった。笠田高校から相談を受けた普及センターでは、JGAP指導員の資格を持つ普及指導員が重点的な支援を行うこととし、担当教諭と協議を重ねた結果「日本なし」でJGAP取得を目指すこととなった。

平成30年3月から高校生に対する指導を開始し、6月22日の審査日までに合計6回の講義や現地指導を行った。

### 3. 具体的な成果

#### 1 農業高校と普及センターとの連携強化

これまでの10年間の取組みにより、笠田高校との連携活動が定着化するとともに、新たな取組みに対しても積極的な協力をいただける体制作りが構築できた。

また、三豊農業教育振興会の総会等を通じ、普及センターと笠田高校との連携の取組みについて、関係市長や市議会議長、市教育長等の理解を深めることができた。

#### 普及センターと笠田高校との主な連携活動

連携活動	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
西讃の農業を考える研修会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハウナンの梨100年祭			○									
農業科2年生の産地農業実習			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地元農産物を使った加工品開発			○	○	○						○	○
三豊農業教育振興会の理事(所長)						○	○	○	○	○	○	○
地元農業法人による会社概要説明会											○	○
JGAP認証(日本なし)取得支援											○	○

#### 2 農業高校生の農業への理解と地域とのつながりが深まった

現場学習や研修会等で、高校生と農業者が同じ課題を共有することによって、笠田高校OBだけでなく、一般の農業者も地域にある農業高校の役割について理解が深まった。また、笠高新鮮市や文化祭、地域でのイベント等に積極的に参加していくことで消費者との交流も深まった。

また、農業科2年生(90名)を対象に、農業士、青年農業士等の協力により、先進のプロ農家の圃場で農作業を体験する「産地農業実習」も定着化した。

#### 3 地元農産物を使った加工品開発

平成21年度から連携を開始し、平成23年度に金時人参、ミカンを使ったジュース「飲んでGO!」を商品化し、産地生産者と学生が共に販売促進活動を行った。

平成29年度から連携を開始し、県アンテナショップで「ビワゼリー」の試作品を試験販売した。また平成30年度に「ビワゼリー」の新商品を再度県アンテナショップで販売を行い、次年度以降も早期商品化に結びつける活動を継続したい。

#### 4 県下初の高校生によるJGAP取得を支援

平成30年6月22日、JGAP認証審査を受験した。現状では大きな指摘事項はないことから、本年度中には香川県初の高校生によるJGAPが取得できる見込みである。

#### 4. 農家等からの評価・コメント

(観音寺市 佐藤正英氏 (香川県農業士))

現場実習は、学校や生徒の都合に合わせて、作業の内容や段取りを考えなければならぬので大変だが、将来の後継者・担い手が育つきっかけとなるとともに、従業員への刺激となり仕事への緊張感が生まれる。地域貢献の取組は農業士の役割だと考えている。

(三豊市 吉田哲士氏 (JA 香川県仁尾町支店果樹部会長))

ビワの「大薬王樹」シリーズのアンテナショップでの販促活動に、高校生が参加してくれることにより、ビワ産地への理解が深まるとともに、それがきっかけとなって、新たな取組みに広がる可能性が出てきた。子供達が農業に関心を持ってくれ、地元への愛着が深まってほしい。

(笠田高校 農場長 石川 浩三教諭)

本校生徒は、非農家出身の割合が増えてきており、地域農業の現状を理解していない生徒が多い。卒業後の進路については、就職生徒のほとんどが地元である観音寺・三豊地区に就職を希望しているが、就農する生徒が極めて少ない現状である。このような中で、10年ほど前から西讃農業改良普及センターとの連携強化に取り組んできた。地域社会と交流を深めることにより、本校の農業教育の活性化を図り、地域に貢献できる学校、魅力ある学校つくりにつながっている。また、生徒は地域社会とのつながりを大切にし、将来の職業人として必要とされる問題解決能力や専門的な知識・技術を身につけようとする向上心が育成できている。今後もこの連携を実践することで、地域農業を支える人材の育成を目指したい。

(笠田高校 食品科学科 谷本 典隆教諭)

西讃普及センターからのお声かけがなければ、我々教員だけの力では、「飲んでGO」、「ビワゼリー」、「オリーブ」、「レタスキムチ」などのプロジェクトは実現していなかったと思います。

そして、それに関わった生徒は充足感、自尊心などを得ることができ将来の礎になったことは間違いありません。

これからも一緒に活動する場面があれば積極的に関わっていきたいと思います。

#### 5. 普及指導員のコメント

(香川県西讃農業改良普及センター 副主幹 宮川三千代)

センターと農業高校との連携は、年に1度の検討会と地域農業学習だけであったが、現場学習への働きかけをきっかけにセンターとの連携が深まり、地域との連携の体制が整い、農業高校も積極的に地域と関わっていくようになってきた。

現在、女子生徒の占める割合が増加し、女子生徒の農業への関心が、女性が活躍できる農業や食に関する地元企業等への就農や就職につながっていくことを期待したい。

## 6. 現状・今後の展開等

依然として高校卒業と同時に就農する生徒は極めて少ないものの、アンケート結果からは、法人経営などこれまでの家族経営とは違った農業に興味を持っている学生も見受けられることから一定の成果はでてきているものと考えられる。今後は、管内農業法人による「農業法人説明会」の時期を、学生の進路決定の時期に併せるなど、より学生の実情に合わせたものとしたい。

また、就農後早期に経営確立できている者は、農業高校出身者とは限らないことから、今後は管内普通高校に対しても、農業の魅力と普及センターの支援等について周知する機会を増やしていきたい。